

(科目コード：2006620007AA)

【改訂】第8版(2015-03-13)

【科目】日本文化論

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】選択 【学期・単位数】前期・2単位

【対象学科・専攻】生産システム,環境 2年

【担当教員】田貝 和子

【授業目標】

用いられていることばの、現代のことばとのつながりや時代背景など、基礎的知識を習得できる。
文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。
論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができる。
社会で使用されることばを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。

【教育方針・授業概要】

本科目の総授業時間数は22.5時間である。

日本語の音声・音韻について学習し、日本語の歴史及び文化をより深く理解する。また、資料収集の作業を元に、自分の研究テーマに関する事項に対して、日本における歴史的変遷を探り、自分の研究テーマに対して、日本文化史の視点から発展可能な事項を見出す。

【教科書・教材・参考書等】

毎回自作プリントを配布する。

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

前半は、日本語の音声・音韻について、講義形式で行う。

後半は、各自のテーマを設定した上で、実際に図書館において調査する。その後、レポートとしてまとめる。

【メッセージ】

歴史を知ることは、現代を知ることです。ことばが変化してきた様子について、思いを馳せてみてください。

また、現代科学の参考となる事項を掘り起こし、日本の風土に適合した開発を考える第一歩になればと思います。

【事前に行う準備学習】

自分の研究テーマについて、専門外の人にわかりやすく説明できるようにしておいてください。

【成績評価方法】

[前期]中間試験：50%、レポート：40%、発表：10%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	用いられていることばの、現代のことばとのつながりや時代背景など、基礎的知識を習得できる。	50%	中間試験により評価する。
2	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができる。	40%	授業内課題及びレポートにより評価する。
3	社会で使用されることばを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	10%	授業内発表により評価する。

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、多種多様な人間文化と社会生活を理解するとともに、ものごとに対して多角的観点から考察できる力を涵養する

【授業計画】(日本文化論)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1回	授業概要	授業の概要を述べ、意義と目的について説明する。 日本語音声の基本的事項について理解する。		講義内容の復習
第2回	日本語の音声・音韻1	音声器官について理解する。		講義内容の復習
第3回	日本語の音声・音韻2	発音記号について理解する。		講義内容の復習
第4回	日本語の音声・音韻3	奈良時代の音声・音韻について理解する。		講義内容の復習
第5回	日本語の音声・音韻4	平安・室町時代の音声・音韻について理解する。		講義内容の復習
第6回	日本語の音声・音韻5	江戸時代の音声・音韻について理解する。		講義内容の復習
第7回	日本語音声・音韻のまとめ	日本語の音声・音韻についての総括を行う。		次回講義の準備
第8回	テーマ設定	自己の研究に関連するテーマを設定する。	授業内課題	次回講義の準備
第9回	資料収集方法	辞書や索引などを使って、資料収集を行う。	授業内課題	次回講義の準備
第10回	レポート作成1	資料をもとにレポートを作成する。	授業内課題	次回講義の準備
第11回～第13回	レポート発表	レポートの内容について発表する。	授業内課題	次回講義の準備
第14回	レポート作成2	レポートの内容を修正する。	授業内課題	次回講義の準備
第15回	総括	授業の総括を行う。		講義内容の復習